

避難所運営訓練調査・参加区民会議委員報告等

(1) 訓練を見学した感想

(青木委員)

- 訓練の実施方法は、いろいろあっていい。避難所運営訓練は初開催ということで、初めて町内会の区域を超えて集まったことで今回は大成功といってよいと思う。
- 訓練は体験してみないと分からない。次回は、要援護者の避難の訓練を取り入れるなど新しい手法を取り入れることで、地域の力は高まっていくと思う。
- 光陽電業社と連携した訓練は素晴らしい。今後は病院などを連携先に加えるなどでできれば、より実践的かつ具体的な訓練になる。

(岡本委員)

- 地域で防災について考える機会があり熱心に討議されていたことは大変有意義な訓練のように思えました。
- 回を重ねることで前進するのではと思いました。

(松本委員)

- 民生委員や防犯・防災・青少年育成に関わる団体の員は、災害時に頼れる人、動ける人と見られます。防災組織のしくみや取組み、全体の流れを理解するために訓練には絶対参加してほしい。
- 実際に訓練を体験してみないと判らないことがあった。
 - ・ 仮設トイレの組み立てに時間がかかる、説明書が判りにくい
 - ・ 室内での無線機の感度
 - ・ 体育館で実際寝泊りする際のスペース確保や区分け方法など
- 組織のリーダーをはっきり決め、指示のもとに動く。
社会経験の豊富な大人は、様々な知識経験を持っているため、皆が勝手にリードしがちになる。統率するリーダーは、正確な判断と指示、組織内でスムーズに動くためのチームワークを日頃の訓練で周知徹底する必要があります。
- 避難所内で精神的フォローを担う人が必要。
デリケートな妊産婦、高齢者、乳幼児、障害者などには寄り添う人が必要。
災害時に動揺している人（大声を出す、怒鳴る、泣く、勝手な行動をする）にも優しく接する人が必要。
- 避難訓練に若い人が参加していない。⇒誘いあう努力も必要。
あらゆる年齢層の方に参加してもらい、多方面から意見を出し合い、問題点を抽出し、地域に合った解決策を考えていく。

(村山委員)

- 6町会の合同訓練であり、多くの様々な年代の参加があった。あらゆる機会をとらえ災害があった場合を考える事は大事であり、訓練は有意義であった。
- 訓練で得たものを各町会に持ち帰り、町会単位で役割分担、組織図を作るのが大切。又、避難訓練は継続が大事であり、区民会議としても応援して行きたい。

(2) 地域課題を解決できるような取り組み事項の案

(岡本委員)

- 各町内で、このような防災を考える機会が開催できればと思う。
- 各班別（作業別）に分かれての話し合いで方向性が明確でなかったの、リーダーの方の研修会など、知識を学習する機会を持てればよいと思う。
- 話し合いの中で問題点等が出された場合は、専門の方（詳しい方）にアドバイスをしてもらうことが出来ればと思った。
- 各地域で問題点が異なると思うので、自由に話してもらうことは大変良いと思う。各地域でまとめ解決方法を考える。
- 避難場所、防災用収納庫についても質問が出ていました。知らない方が多かった様に思うので、実際に自分達の街を歩くのも良いと思う。

(松本委員)

- 規模の大きい訓練も必要ではあるが、町内会単位でメンバーを交代しながら定期的に訓練を実施し、自分の役割は何かを知る事が大切である。
- 町内会の行事や祭礼、地域と関係のある学校行事等で、防災意識を高める講和や啓発物を配布し地域住民に防災組織のPRをする。

平成22年11月29日

第3期「区民会議」

中原中学校区避難所運営訓練見学記

区民会議委員 芳賀 誠

(課題調査「安全・安心きずなづくりにむけて」部会)

頭書の件について実感を記す。

- 1) 今回で5回目、3年連続実施している由、住民の意識の高さに敬服。
しかも、小杉・丸子地区に分かれての町会が一致協力している。また、運営進行も手馴れていた。
- 2) 阪神大震災のVTRでは地震・火災の恐ろしさが実感できた。一部CGも入っている様であるが実写の迫力身に迫るものがある。特に二次災害(火災)が甚大で火の始末が大切である。また、この辺は液状化現象が心配。
- 3) 訓練に、中学生が参加していた。緩急の時大人はそれぞれ仕事や役割があり人力が不足する、避難場所を熟知している中学生のパワーが必要である。非常に良いところに目をつけられた。
また、中学生たちも積極的に仕事に参加、頼もしかった。
- 4) 炊き出し、人工呼吸法・EADの使い方、簡易トイレの組み立てなどの訓練もあり、日頃からこのような習練が出来ていれば、いざと言う時多いに役立つと思う。
- 5) 出来うれば、避難所の組織・運営や避難生活の注意事項等の貼り出しがあれば、避難してきた住民の皆さんが安心できる。と思う。(実践に則した避難訓練が出来れば?)
- 6) 訓練の重要性の中で、救助活動対応・救援物資等の到着など多面对応での混乱がどうしても生じる、参加者の自助努力が如何に必要かもっと力説して欲しかった。
- 7) 訓練時に用具の取り扱いも熟知した指導員が必要と思う。(取り扱い説明書を見る余裕がない=ネジの締め付け方、組み立て手順)
- 8) 戦前生まれの私にとって、アルファ一米の炊き出し、ボトル茶など夢の食品である避難所でも美味と栄養が十分に用意され、天国のようである。

以上。

中原中学校避難所運営訓練（11月26日）を見学した感想です。

（1）訓練を見学した感想

- ・訓練開始前に阪神淡路大震災のビデオ鑑賞と「災害に備えて」の資料説明があり、会場内に緊張が漂い真剣さを感じました。
- ・中原消防署長のあいさつで、「中学生と顔の見える、話ができる関係を地域で作っておくことが大切」とあり、最もとだと痛感しました。
- ・簡易トイレの組み立てに時間がかかりすぎている。いざという時誰でも組み立てられるように、防災訓練時に手順やコツなどを判り易く書いた独自のガイドを用意してはどうでしょうか。
- ・体験は必須であり、行動に移す時は声をかけ確認し合う事が大切です。普段から顔のわかる関係、あいさつができる習慣づけが必要と強く感じました。

（2）地域課題を解決できるような取り組み事項の案

- ・訓練参加者に災害弱者（妊産婦や乳幼児、障害者、高齢者など）を交え、いろいろな視点で問題点を出し合い、解決策を検討していく。
- ・避難訓練を実施していない町内会・自治会に、訓練の必要性を区民会議から情報を発信していく。
- ・減災（各人が災害に備えて自助を行い、災害の被害を減らす）の意識を高めるため、自主防災組織、区民会議、行政が連携し防災フォーラムを開催する。
- ・なかはらこども未来フェスタにおいて、防災意識調査のアンケート協力者おひとりずつ啓発物を渡しながら、区民会議のテーマや取組みについて声かけすることができ、委員と区民の距離が近くなったように感じました。区役所内での会議ばかりでは声が届かないので出張会議も必要だと感じました。

以上

平成22年11月30日

区民会議委員 松本玲子